スクール文化

目指せ！日本一

高校総文祭県代表紹介

矢板中央高

新聞部

「中央ぷれす」300号に

写真多く迫力ある紙面

矢板中央高新聞部

7年連続8度目の全国高校総合文化祭（総文祭）への出場を決めた矢板中央高新聞部。県予選には県高文連新聞専門部会に所属する13校がエントリー。年間発行回数や記事のレベルの高さ、写真を大きく使った迫力ある紙面構成など、各項目で高い評価を受けた。（杉山演）

「ひがしはら（コラム）の原稿はできてるか」「顔写真は撮り終えているか」「もう時間がないぞ」―。締め切り迫る部室に顧問の中山久生（ひさお）教諭の声が響く。レイアウトを行うパソコンの前に部員が集まり「この原稿だけでは紙面が埋まらない。写真は、1993年創刊で通常はタブロイド判2ページ。年に2回16ページほどの特集号を発行する。昨年10月5日号で第300号を数えた。学校行事や生徒の各種大会での活躍を伝えるなど、重要な役割を担っている。

中山教諭は元新聞記者の経歴を生かし、本格的な紙面作りを指導。写真を大胆に使ったレイアウトが特徴で、社説にあたる「部説」、コラム「ひがしはら」は、各部員が持ち回りでペンをふるっている。「本物の新聞を意識して製作に当たらせている」と中山教諭。また、新聞製作に役立つワープロ検定や、ホームページ制作などの検定試験にも積極的に挑戦している。

表情豊かな写真が紙面を飾る「中央ぷれす」。カメラ担当の2年益子達明（ましこたつあき）君は「入部後から撮り始めたが、最近は構図に工夫できるようになってきた」と話す。

メモ　県高校文化連盟新聞専門部には13校約300人が所属。毎年10、11月に県高校新聞コンクール兼全国大会県予選会が開かれ、翌年7月に行われる全国高校総合文化祭への出場校が決定される。審査の対象は高校教諭の指導で編集、発行された新聞。記事内容、文章表現、紙面構成などを評価し、最優秀校、優秀賞校、優良賞校などを選ぶ。このほか全国規模の大会には、毎年1月下旬に結果発表される全国新聞コンクールがある。

紙面製作などを行う矢板中央高新聞部

「中央ぷれす」300号の1面

部長に聞く

永山優美菜（ながやまゆみな）さん（2年）

助け合い紙面製作

Q　新聞部の面白さは。

A　記者、カメラマンが協力して、みんなで紙面を作り上げる楽しさがあります。

Q　部活の雰囲気は。

A　いつも騒がしいぐらいににぎやかです。各自が割り当てられた取材やレイアウトなどをこなしますが、助け合って紙面が作れていると思います。

Q　新聞製作の難しいところは。

A　入部するまでは記事の書き方も全く分からなかったので、最初は戸惑いました。少しずつ練習を重ね、だんだん上手に書けるようになりました。月2回発行なので、締め切りにいつも追われている気がします。

Q　新聞部に入部してよかったと思うことは。

A　2年連続で全国大会に出場できたので、全国の高校生と新聞作りができ大変いい経験になりました。また、大学進学でもAO入試などで新聞部での活動・実績が評価されるので、より力が入っています。